

今城周作君が Multis2017 において若手の優秀ポスター発表賞を受賞

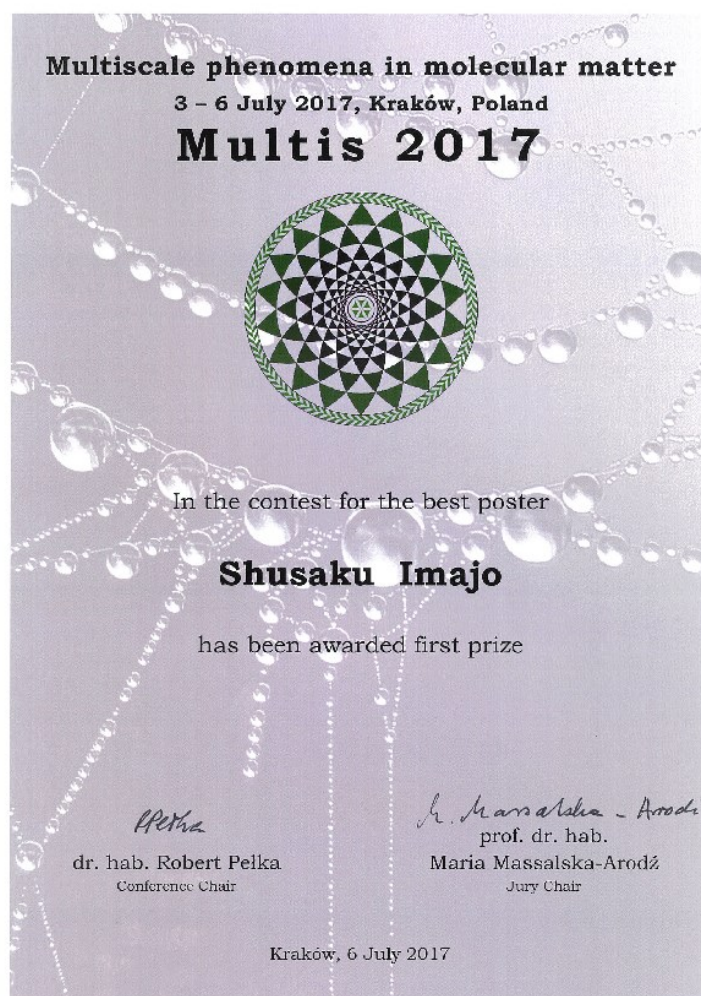
構造熱科学研究センターの兼任講座に所属している大学院生の今城周作君が、今夏、ポーランドのクラクフで行われた国際会議 Multis2017 (Multiscale Phenomena in Molecular Matter) (2017 年 7 月 3 日から 6 日で開催)で優秀発表賞(若手研究者を対象としたポスター発表賞)に選出されました。今城君は、現在、博士後期課程の 3 年で、熱力学的な手法で分子性電荷移動塩で起こる π 電子系の強相関物性を微小単結晶による熱容量測定を通した研究に取り組んでいます。この国際会議は、分子の凝縮系に焦点をあて、その物理化学的性質を議論する会議で、タイトルにもありますように、様々なスケールで出現する凝集相の階層構造の面白さに焦点をあてています。主催は、クラクフの核物理研究所の Robert Pelka 先生と、同先生のグループの皆様になります。ポーランドの核物理研究所の凝縮系部門は、金属錯体や電荷移動塩の分子磁性の研究や液晶の構造に関する物理化学研究の先端を走る研究グループがあり、もともとのグループを率いていた Prof. Jerzy Janik 先生の関連の方々の Friendship ミーティングが毎年行われていました。その後、国際会議の形態にかわり、2015 年に第 1 回の国際会議が開かれました。以降、2 年をめでに継続をしていくことが決まり、本年が第 2 回目になります。Robert Pelka 先生、Maria Balanda 先生、Tedeusz Wasiutyński 先生らが中心となり、ヨーロッパでかなり勢力的に進められている分子磁石の研究者が参加されました。E. Coronado 先生や M. Evangelisti 先生や Y. Garcia 先生らが参加され、日本からも東工大の腰原先生や京大の山本先生らも参加されており、非常に充実した内容の会議でした。今城君は、7 月 4 日の夕方、ポスターの発表をしました。日の長いヨーロッパでもあり、ポスター会場は研究所の正面の芝生の広場に大きなテントをはった簡易施設をつくり、夕方の明るいうちからスタートし、日没まで飲み物やオードブルを片手にというスタイルでした。セッションが白熱して長引き、19:30 くらいからのスタートですが、ポスターで議論できる時間は十分にとれ、21:00 に近くなってもまだまだ明るい(もちろん簡易ライトはありましたが)環境で 2 時間以上の議論がなされました。今城君のプレゼンテーションのタイトルは“Low Temperature Electronic State of β ”-Type Organic Conductors”で、熱容量と輸送現象測定、構造解析を用いて一連の β ”型の電荷移動塩の電子構造を議論した内容になります。なぜ、この塩で電荷揺らぎと超伝導が相関をもって現れるのかを、バンド構造や磁気抵抗等によるド・ハース信号の測定と対応させながら論じたところに説得力があったようで、高い評価を得ることができたようです。

7 月 5 日の懇親会は、ヨーロッパでもかなり古い歴史をもつ修道院の訪問の帰りに船上で行われましたが、6 日の閉会式の際に、優秀プレゼンテーションに関する発表と表彰式がありました。3 件が選ばれましたが、今城君の名前は最初に呼ばれ、第一位の評価を得たとのこと。実は、帰りのフライトの関係で閉会式の 1 時間前に出発をしてしまい、その場に立ち会うことができませんでした。閉会式の終了後に、Robert Pelka 先生から指導教員の中澤が表彰状(写真)と副賞の Amazon の Kindle 端末を代理で頂き、Pelka 先生からよろしくとの伝言を頂きました。受賞の知らせは Amsterdam の空港にいた今城君にすぐに知らせました。単結晶の合成から、構造解析、物性測定の一連の仕事が非常にうまくまとまりました。現在、博士学位の取得に向けて、熱的な性質に力を入れて特異な物性の起源を明らかにしようと奮闘しています。今後の活躍に期待したいと思います。

(中澤康浩)



The entrance of the lecture hall of Institute for Nuclear Physics, Kraków where the Multis2017 was held in July 3 – 6.



The award certification of the best presentation for young researchers.